

令和4年度 学校評価 中間評価報告

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の 達成度判断基準 【B以上で達成、 C・Dは工夫改善】	質問項目	中間集計結果	分析 (成果と課題)																																										
(1) 授業改善 と専門性 の向上	① <授業改善> 目標評価及び教科 の見方・考え方の 視点から授業改善 を行う。各教科と 各教科等を合わせ た指導との関連を 図る。	研究 推進 課 各 部	担当授業等で主体的・ 対話的で深い学びの視 点から学習内容や指導 方法の工夫改善に取り 組んだ職員の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 <u>達成度判断基準</u> 7項目の質問に対し、 4項目以上実施した職 員の割合が80%以上	【教員アンケート】(あてはまるもの 全てに○をつける) ア:学習指導要領の目標や内容を基に児 童生徒の実態に合わせた目標及び学 習内容の工夫をした イ:「児童生徒にどのような力が身につ いたか」という学習の成果を的確に とらえるため、評価方法を工夫した ウ:児童生徒の興味関心に合わせ「参加 したい」と思えるストーリー(文脈) が意識できるよう工夫した エ:自分と他者の意見や考え方を比較し たり、考えを広げたり深めたりでき るような学習場面について工夫した オ:単元の学びを生活や他の学習に関連 付けて生活に活かせるように工夫し た カ:教科の見方・考え方を働かせる又は 育てる場面を意識して、手立てや問 いについて工夫した キ:主体的な学び、対話的な学び、深い 学びをイメージしそれにつながるよ うICT機器の活用を工夫した	各教員が実施した項目数の割合 ①6～7項目実施 ②4～5項目実施 ③2～3項目実施 ④0～1項目実施 達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="1173 440 1657 628"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>8.3</td> <td>36.9</td> <td>54.8</td> <td>0.0</td> <td>45.2</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>37.5</td> <td>25.0</td> <td>37.5</td> <td>0.0</td> <td>62.5</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>35.3</td> <td>29.4</td> <td>29.4</td> <td>5.9</td> <td>64.7</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>25.0</td> <td>50.0</td> <td>25.0</td> <td>0.0</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>29.3</td> <td>31.7</td> <td>36.6</td> <td>2.4</td> <td>61.0</td> </tr> </tbody> </table> 【結 果】D「①+②」=61.0%		①	②	③	④	①+②	小	8.3	36.9	54.8	0.0	45.2	中	37.5	25.0	37.5	0.0	62.5	高	35.3	29.4	29.4	5.9	64.7	分訪	25.0	50.0	25.0	0.0	75.0	全体	29.3	31.7	36.6	2.4	61.0	アンケートの結果、4項目以上実施し た教員(①+②)の割合は、全体では61.0% となり達成基準に満たず、D評価となっ た。各学部の達成度でも小学部 45.2%、 中学部 62.5%、高等部 64.7%、分教室・ 訪問教育部 75.0%であった。 アンケートの項目別に見ると、項目ア やキは80%を超え学習指導要領に基づい た学習内容や主体的・対話的で深い学び を意識した ICT 機器の活用を工夫してい ることがわかる。その他の項目イ～カに ついては、いずれも40～50%程度となり 後期に向けての課題と考えられる。 今後は授業打ち合わせ会において児童 生徒が主体的・対話的に学ぶ手立てや学 習評価について話し合う場面を設け、研 究会を通して教科の見方・考え方を明確 にして、他の学習等と関連付け、授業改 善を進めていく。						
	①	②	③	④	①+②																																											
小	8.3	36.9	54.8	0.0	45.2																																											
中	37.5	25.0	37.5	0.0	62.5																																											
高	35.3	29.4	29.4	5.9	64.7																																											
分訪	25.0	50.0	25.0	0.0	75.0																																											
全体	29.3	31.7	36.6	2.4	61.0																																											
	② <専門性の向上> 児童生徒の特性や 能力に応じ、確か な学びに繋がる授 業を展開する。主 な教育内容につい て明示する。	教 務 課	授業参観等で授業内容 に満足している保護者 や関係機関職員の割合 A：a + b = 90%以上 が5項目 B：a + b = 90%以上 が4項目 C：a + b = 90%以上 が3項目 D：a + b = 90%以上 が2項目以下 <u>達成度判断基準</u> 4項目でB以上の評価 の割合が90%以上	【保護者・関係者アンケート】 (あてはまるもの全てに○をつけ る) ア:指導内容は児童生徒にとってわ かりやすい イ:児童生徒が落ち着いて学習でき る環境である ウ:使用されている教材(タブレッ ト端末等のICT機器を含む)に工 夫が見られる エ:児童生徒が主体的に活動してい た オ:児童生徒が自分の気持ちや考え を表現していた	参観者アンケート5項目を5段階評価(aとても そう思う、bそう思う、cあまり思わないd思わ ない、eわからない)の割合で算出 達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="1173 1110 1657 1299"> <thead> <tr> <th></th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>a + b</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア</td> <td>61.5</td> <td>36.9</td> <td>1.5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>56.9</td> <td>43.1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td>53.8</td> <td>30.8</td> <td>3.1</td> <td>0</td> <td>9.2</td> <td>84.6</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td>50.8</td> <td>44.6</td> <td>3.1</td> <td>0</td> <td>1.5</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td>53.8</td> <td>40.0</td> <td>3.1</td> <td>0</td> <td>3.1</td> <td>93.8</td> </tr> </tbody> </table> 【結 果】B「a + b」=90%以上が4項目		a	b	c	d	e	a + b	ア	61.5	36.9	1.5	0	0	98.4	イ	56.9	43.1	0	0	0	100	ウ	53.8	30.8	3.1	0	9.2	84.6	エ	50.8	44.6	3.1	0	1.5	95.4	オ	53.8	40.0	3.1	0	3.1	93.8	前期は4月に保護者を対象にした授業 参観を、7月に保護者と放課後等デイサ ービスなどの関係機関職員を対象に学校 公開を実施した。 今年度より、タブレット端末等を含ん だ教材の工夫や児童生徒の主体的な姿に ついてアンケートを実施した。5項目の うち4項目でa+b評価が90%を超え、B 評価となった。 また、今年度より公開授業の単元名と 目標、年間指導計画を掲示し当日の授業 内容等が明確になるようにした。後期も 学校公開と授業参観を予定している。保 護者や外部の方のご意見を参考にして確 かな学びに繋がる授業を展開する。
	a	b	c	d	e	a + b																																										
ア	61.5	36.9	1.5	0	0	98.4																																										
イ	56.9	43.1	0	0	0	100																																										
ウ	53.8	30.8	3.1	0	9.2	84.6																																										
エ	50.8	44.6	3.1	0	1.5	95.4																																										
オ	53.8	40.0	3.1	0	3.1	93.8																																										

	<p>③ <ICTの活用> 児童生徒がICTを活用し主体的に取り組む授業を実践する。</p>	<p>情報支援課</p>	<p>児童生徒自身がICT機器を活用している割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p>達成度判断基準 週1回以上ICT機器を活用している児童生徒の割合が70%以上</p>	<p>【教員アンケート】 (学級の児童生徒が授業でタブレット端末をどのくらい使用しているか) ①週に4～5回使う ②週に2～3回使う ③週に1回使う ④あまり(全く)使っていない</p>	<p>児童生徒が授業でICT機器を活用している割合 ①週に4～5回使う 17.0% ②週に2～3回使う 71.7% ③週に1回使う 3.8% ④あまり(全く)使っていない 7.5%</p> <p>【結果】 A「①+②+③」=92.5%</p>	<p>アンケート結果より、児童生徒が授業で使用する場面が学校全体で定着してきており、A評価となった。授業でほとんど使えていない児童生徒(7.5%)の内訳は、小学部で1人、分教室で2人、訪問教育部で1人となっており、指先での画面操作や障害のため画面を見ることができないなどの理由が挙げられていた。 今後は個に応じたより良い支援ができるよう、また、児童生徒が主体的に取り組むためのタブレット端末の活用を推進していく。</p>
<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>① <プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プログラム(改訂版)を活用し、自己選択や自己決定に関する実践や家庭との連携を図る。</p>	<p>進路支援課 各担任</p>	<p>キャリア教育の具体的な取組内容を意識し、家庭等でも取り組んでいる保護者の割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p> <p>達成度判断基準 家庭で取り組んでいる保護者の割合が60%以上</p>	<p>【保護者アンケート(全学部)】 (キャリア発達につながる具体的な内容の家庭での取組について) ①取り組んでいる ②少しずつ取り組んでいる ③これから取組もうと思っている ④取り組んでいない</p>	<p>具体的な内容の家庭での取組み</p> <p>【結果】 C「①+②」=58.6%</p>	<p>家庭での取組みを行っている割合は58.6%でC評価になり、達成基準にわずかに届かなかった。家庭での取組み内容は、挨拶や衣服の着脱、準備や片付けなどの身近なことが多く、少しずつ本人の様子に合わせてながら生活の中で無理せず取り組んでいる様子が伺える。 錦城版キャリア教育プログラム(改訂版)の保護者全員の理解と、家庭と学校が共に児童生徒のキャリア発達を促していくことを目指して、懇談や連絡帳等で児童生徒の成長を具体的に伝えることをより一層心掛けていく。</p>

②	<p><進路支援の充実> 保護者も交えた進路研修会を実施しキャリア教育や進路支援の充実を図る。</p>	進路支援課	<p>進路支援研修会を通してキャリア教育や進路に関する意識の向上が見られる保護者・職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p>達成度判断基準 子どもの進路について考える機会になった保護者の割合が70%以上</p> <p>達成度判断基準 5項目の質問に対し4項目以上当てはまる教員の割合が70%以上</p>	<p>【保護者アンケート（高等部）】 （進路関係行事を参観し、進路について考える機会となったか） ①考える機会となりよかった ②考える機会にはなかった ③あまり考えなかった ④考える機会にはならなかった</p> <p>【教員アンケート】 進路研修会を通して（あてはまるものすべてに○をつける） ア:キャリア教育の大切さを理解するとともに、自身の授業や児童生徒との関わり方等に生かそうと思った イ:児童生徒のキャリア形成において、教師の対話的なかかわりが大切であることを理解できた ウ:児童生徒自身が自己のキャリア形成において、自身の活動や経験を振り返ることが大切であることを理解できた エ:前期に、キャリア発達を意識した授業を行っている オ:児童生徒一人一人の錦城版キャリア教育学習プログラムでの取り組みとキャリアパスポートをつないで活用していこうと考えている。活用している。</p>	<p>【保護者アンケート（高等部）】 ①91% ②9% ③0% ④0%</p> <p>【結果】 A「①+②」=100%</p> <p>【教員アンケート】 項目選択数（%）</p> <table border="1" data-bbox="1173 395 1704 651"> <thead> <tr> <th></th> <th>① 5個</th> <th>② 4個</th> <th>③ 3個</th> <th>④ 2個</th> <th>⑤ 1個</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>18.2</td> <td>9.1</td> <td>36.3</td> <td>9.1</td> <td>27.3</td> <td>27.3</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>0.0</td> <td>44.5</td> <td>33.3</td> <td>11.1</td> <td>11.1</td> <td>44.5</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>17.6</td> <td>29.4</td> <td>35.3</td> <td>5.9</td> <td>11.8</td> <td>47.0</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>12.2</td> <td>24.4</td> <td>36.6</td> <td>12.2</td> <td>14.6</td> <td>36.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 D「①+②」=36.6%</p>		① 5個	② 4個	③ 3個	④ 2個	⑤ 1個	①+②	小	18.2	9.1	36.3	9.1	27.3	27.3	中	0.0	44.5	33.3	11.1	11.1	44.5	高	17.6	29.4	35.3	5.9	11.8	47.0	分訪	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	全体	12.2	24.4	36.6	12.2	14.6	36.6	<p>高等部の進路関係行事を参観した保護者全員が、子どもの進路について考える機会となったと回答した。子どもの進路先を考えるにあたって、卒業生の様子や実習先などの情報を知りたいと考えており今後も参加したい等の回答もあった。後期は小中学部の保護者にも案内し、進路について考えていただく機会としていきたい。</p> <p>教員に対しては、進路研修会を通してキャリア教育に関する意識の向上を図っているが、中間評価はD評価となり取り組みが十分ではないとの結果となった。後期は、夏季に行ったキャリアパスポートに関する職員研修を深めることや、キャリアの視点から授業を見つめ直し行うこと等をキャリア教育推進委員会と連携して進めていく。</p>
	① 5個	② 4個	③ 3個	④ 2個	⑤ 1個	①+②																																										
小	18.2	9.1	36.3	9.1	27.3	27.3																																										
中	0.0	44.5	33.3	11.1	11.1	44.5																																										
高	17.6	29.4	35.3	5.9	11.8	47.0																																										
分訪	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0																																										
全体	12.2	24.4	36.6	12.2	14.6	36.6																																										
(3) 安心・安全な学校づくり	① <健康・安全・防災に関する教育活動の充実> 健康・安全・防災に関する授業や行事等において実践を行う。	指導課 保健課 各部	<p>健康や感染症、食育等に対応した指導及び学校安全計画に即した指導を行っている職員の割合 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満</p> <p>達成度判断基準 5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が90%以上</p>	<p>【教員アンケート（指導課）】 （あてはまるもの全てに○をつける） ア:避難訓練にあたり、安全な行動、避難について指導した イ:学校安全計画に基づき、授業における安全な行動や道具の使い方について指導した ウ:授業や機会をとらえて、生活・交通・災害（地震・水害）に関する安全指導をした エ:学校生活において児童生徒の安全確保のために適切な行動をとった オ:上記以外で各自が実施していることを一つ自由記述</p>	<p>各教員が実施した項目数の割合 ①5項目実施 ②4項目実施 ③3項目実施 ④2項目実施 ⑤0～1項目実施</p> <p>達成度の割合（単位%）</p> <table border="1" data-bbox="1173 1094 1704 1286"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>0</td> <td>18.2</td> <td>45.4</td> <td>9.1</td> <td>27.3</td> <td>18.2</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>0</td> <td>25.0</td> <td>50.0</td> <td>12.5</td> <td>12.5</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>5.6</td> <td>44.4</td> <td>22.2</td> <td>16.7</td> <td>11.1</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>50.0</td> <td>0</td> <td>50.0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>2.4</td> <td>29.3</td> <td>36.6</td> <td>12.2</td> <td>19.5</td> <td>31.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 D「①+②」=31.7%</p>		①	②	③	④	⑤	①+②	小	0	18.2	45.4	9.1	27.3	18.2	中	0	25.0	50.0	12.5	12.5	25.0	高	5.6	44.4	22.2	16.7	11.1	50.0	分訪	0	0	50.0	0	50.0	0	全体	2.4	29.3	36.6	12.2	19.5	31.7	<p>アンケートの結果、「①+②」の全体の割合は31.7%でD評価となり達成基準には達しなかった。学部別で見ると、小学部は18.2%、中学部は25.0%、高等部は50.0%、訪問と分教室は避難訓練を実施していないことや学校での授業を行っていないため0%となった。</p> <p>アンケートの項目別に見ると項目ア、エは70%台を超えているが、項目オは7.3%だった。</p> <p>後期は、学校安全計画をもとに授業を行うだけでなく学校の教育活動全体の中で教職員一人一人が指導することや各自が行っている安全確保のための行動を一層推進していくよう働きかけていく。</p>
	①	②	③	④	⑤	①+②																																										
小	0	18.2	45.4	9.1	27.3	18.2																																										
中	0	25.0	50.0	12.5	12.5	25.0																																										
高	5.6	44.4	22.2	16.7	11.1	50.0																																										
分訪	0	0	50.0	0	50.0	0																																										
全体	2.4	29.3	36.6	12.2	19.5	31.7																																										

達成度判断基準
5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が90%以上

【教員アンケート(保健課)】
(あてはまるもの全てに○をつける)
ア: 病気や感染症にかからないように食事や健康についての指導を行った
イ: 食事場面において、安全、衛生面の指導または環境設定を行った
ウ: 食べ物を大事にし、食物の生産等に関わる人々への感謝の気持ちを育てる指導を行った
エ: 児童生徒が食事のマナーやきまりを理解し、行動できるような指導を行った
オ: 食育全体計画を参考にして、教科等の授業において食に関する指導を行った

各教員が実施した項目数の割合
① 5項目実施 ② 4項目実施
③ 3項目実施 ④ 2項目実施
⑤ 0～1項目

達成度の割合(単位%)

	①	②	③	④	⑤	①+②
小	0.0	45.5	18.2	27.3	9.1	45.5
中	0.0	37.5	25.0	25.0	12.5	37.5
高	16.7	27.8	22.2	22.2	11.0	44.4
分館	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	25.0
全体	7.3	34.2	19.5	22.0	17.0	41.5

【結果】 D「①+②」=41.5%

アンケートの結果、「①+②」の全体の割合は、41.5%でD評価となり達成基準に達しなかった。学部別で見ると、小学部は45.5%、中学部は37.5%、高等部は44.4%、分教室と訪問は、食事場面を設けることが難しく項目内容が限られてしまうため25%となった。
アンケートの項目別に見ると項目ア、イ、エは全体の70%台に対し、項目ウとオは全体で半数を満たなかった。
後期は、食育全体計画をもとに食に関する指導の目標および指導内容を確認し学校教育活動全体や教科等に取り入れられるように推進していく。

② <危機管理意識の向上>
マニュアルやヒヤリハット等を参考に、日常の安全管理に留意した行動をとり事故防止や健康管理を行う。

指導課

マニュアルやヒヤリハット事故報告等を参考に日常の安全管理に留意した行動をとっている職員の割合
A : 100%
B : 90%以上
C : 80%以上
D : 80%未満

達成度判断基準
5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が90%以上

【教員アンケート(指導課)】
(あてはまるもの全てに○をつける)
ア: 教室、廊下、手洗い場等の不要なゴミを処分し、環境整備を行った
イ: 事故やヒヤリハットが起きないように、特別教室や階段など、児童生徒が一人でいなか気を配った
ウ: 防火管理責任箇所や教室、特別教室等の安全確認を行った
エ: 危機管理マニュアル(個別のものを含む)を確認し、理解した
オ: 学校生活の中で、ヒヤッとしたことを他の教員と共通理解し、事故防止に努めた

各教員が実施した項目数の割合
① 5項目実施 ② 4項目実施
③ 3項目実施 ④ 2項目実施
⑤ 1項目実施

達成度の割合(単位%)

	①	②	③	④	⑤	①+②
小	54.5	27.3	18.2	0	0	81.8
中	62.5	12.5	12.5	0	12.5	75.0
高	61.1	22.2	0	11.1	5.6	83.3
分館	0	75.0	25.0	0	0	75.0
全体	53.7	26.8	9.7	4.9	4.9	80.5

【結果】 C「①+②」=80.5%

アンケートの結果、全体として80.5%でC評価となり達成基準には達しなかった。
アンケートの項目別に見ると、項目アイ、オについてはそれぞれ90%を超えているが、項目ウ、エについては指導課からの説明や資料の回覧等が少なかったためだと考えられる。
今後は、安心・安全な学校づくりのため教員の危機管理意識が高まるよう、部会等で説明したり、訓練毎に危機管理マニュアルを提示したりしていきたい。

<p>(4) 業務の効率化の工夫</p>	<p>① <業務の効率化と環境改善> タブレット端末を活用し、会議等のペーパーレス化や短時間化、データ管理、情報共有等の業務の効率化と環境改善を図る。</p>	<p>教頭</p>	<p>課会や部会、各種委員会、打合せ等でペーパーレス化や短時間化を工夫し、データ管理や情報共有を行っている職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p>達成度判断基準 5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が70%以上</p>	<p>【教員アンケート】（あてはまるもの全てに○をつける） ア:会議時間の短縮のため、教員への連絡はできるだけTeamsを活用した イ:会議や打合せなどでは、ペーパーレスを意識しタブレット端末を活用した ウ:作成した資料や教材を共有フォルダに保存したり、共有フォルダにある資料や教材を活用したりした エ:会議時間の短縮のため、要点をまとめて提案するよう意識した オ:学部会や課会で、業務の効率化、平準化につながる意見を提案した</p>	<p>各教員が実施した項目数の割合 ① 5項目実施 ② 4項目実施 ③ 3項目実施 ④ 2項目実施 ⑤ 1項目実施 ⑥ 実施していない</p> <p>達成度の割合（単位%）</p> <table border="1" data-bbox="1173 252 1682 440"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>⑥</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>18</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>18</td> <td>0</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>0</td> <td>25</td> <td>0</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>16</td> <td>55</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>0</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>15</td> <td>39</td> <td>20</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>2</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 D「①+②」=54%</p>		①	②	③	④	⑤	⑥	①+②	小	18	27	27	9	18	0	45	中	13	25	37	0	25	0	38	高	16	55	6	11	6	6	71	分訪	0	25	25	50	0	0	25	全体	15	39	20	12	12	2	54	<p>アンケートの結果、4項目以上実施した教員の割合は全体として54%でD評価となり達成基準に満たなかった。4項目以上実施した教員が最も多かったのは高等部で、71%の教員が達成基準に達していた。2～3項目実施した教員は全体の32%であった。</p> <p>アンケートの項目別に見ると、項目アを実施した教員が80%、ウを実施した教員が78%と多くTeamsが教員間の伝達ツールとして活用されていることがわかった。資料や教材の共有化もされており業務の効率化につながっていると考えられる。その反面業務の効率化、平準化につながる意見を提案した教員は少なく、意見やアイデアを提案するまでには至っていないと考えられる。</p> <p>今後は、潜在的な意見を吸い上げることができるよう取り組みを行い、一層業務の効率化を推進する。</p>
	①	②	③	④	⑤	⑥	①+②																																															
小	18	27	27	9	18	0	45																																															
中	13	25	37	0	25	0	38																																															
高	16	55	6	11	6	6	71																																															
分訪	0	25	25	50	0	0	25																																															
全体	15	39	20	12	12	2	54																																															